

はじめに

昨年4月1日「和歌山県教育センター学びの丘」が、県のほぼ中央に位置する田辺市に移転・開所して、1周年を迎えようとしています。教育センター学びの丘は、これまでの教育研修センターの組織・機構を改編し、教職員研修、調査・研究及び教育相談に加え、カリキュラムセンター機能や環境教育情報センター機能とともに、紀南地方の生涯学習の拠点としての業務を付加し充実を図っています。施設・設備の面では、プラネタリウムや電子顕微鏡、各種の分析機器、情報関係の機器等を新たに設置し、これらを活用した研修やモデル授業等を実施し成果をあげています。また、紀南生涯学習フェスティバル等の事業でも、大勢の来所者でにぎわうなど、県内における生涯学習の新しい拠点として脚光を浴びつつあるところです。

ところで、我が国の教育分野では、国の社会・構造改革の流れにそった多様な教育論議と、それに基づく様々な取組を学校や地域社会において積み重ねることによって、改革が進んできています。しかしながら、国際学力調査等から明らかになった、児童生徒の学力の状況や学習意欲などの課題を受け、国は中央教育審議会に義務教育特別部会を設け、「新しい時代の義務教育を創造する」(答申)をとりまとめました。

その中では、学校の教育力、すなわち「学校力」の強化として「教師力」の強化を掲げています。本年1月に公表された本県の「和歌山の未来をひらく義務教育」(報告)の中でも、確かな学力の定着と豊かな人間性を育むためには、授業で勝負できる資質と能力、情熱と人間力を備えた教員の重要性が指摘されています。

教育センター学びの丘は、教員の資質向上への取組が最重要課題であり、これに向けた研修と研究を充実させ、県民の教育に対する期待に応えていく使命を担っています。そのためにも、所員それぞれが研究テーマを持ち、主体的に取組み、諸事業に活かしていくことが重要であると考えています。

本研究紀要では、この1年間の所員による様々な研究の中から、学びの丘の施設・設備を活用して行った「モデル授業」とその意義、和歌山方式で20年が経過した教育相談と今後の課題、和歌山県の歌の研究等6編を掲載しています。これらの内容が、日々の教育実践の参考となり、本県教育の充実につながることを願うとともに、ご高覧のうえ皆様の忌憚のないご意見をいただければ幸いに存じます。

なお、本紀要とは別に、教育センター学びの丘のWebページには、「Quarterly Times」及び「学びの丘だより (Manabi Hills)」も掲載していますので、こちらも併せてご一読くだされば幸いです。

平成18年3月

和歌山県教育センター学びの丘
所長 吉松敏隆